興津地区の課題共有

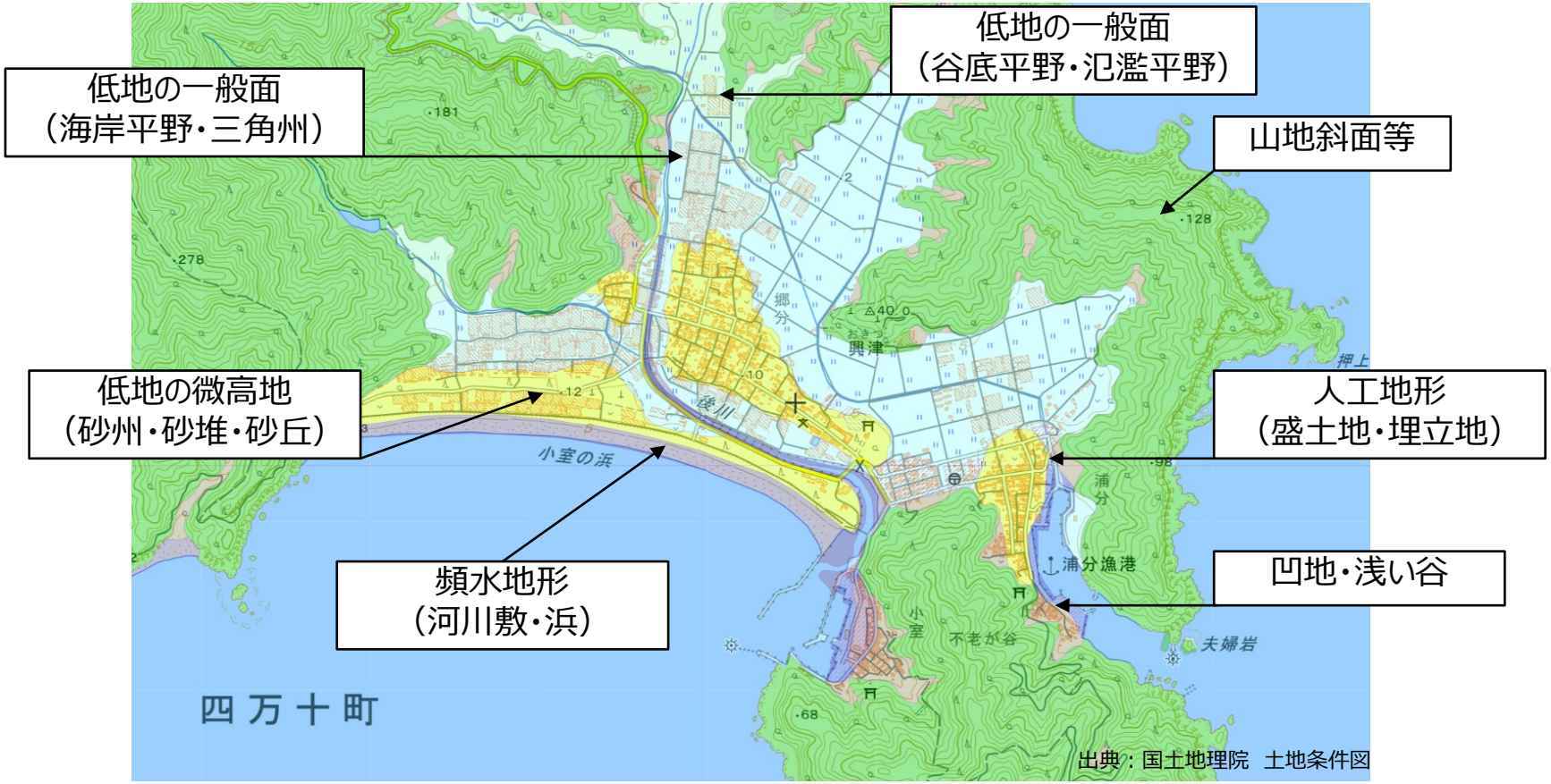
興津の地域特性と社会基盤の現状

地理的・地形特性

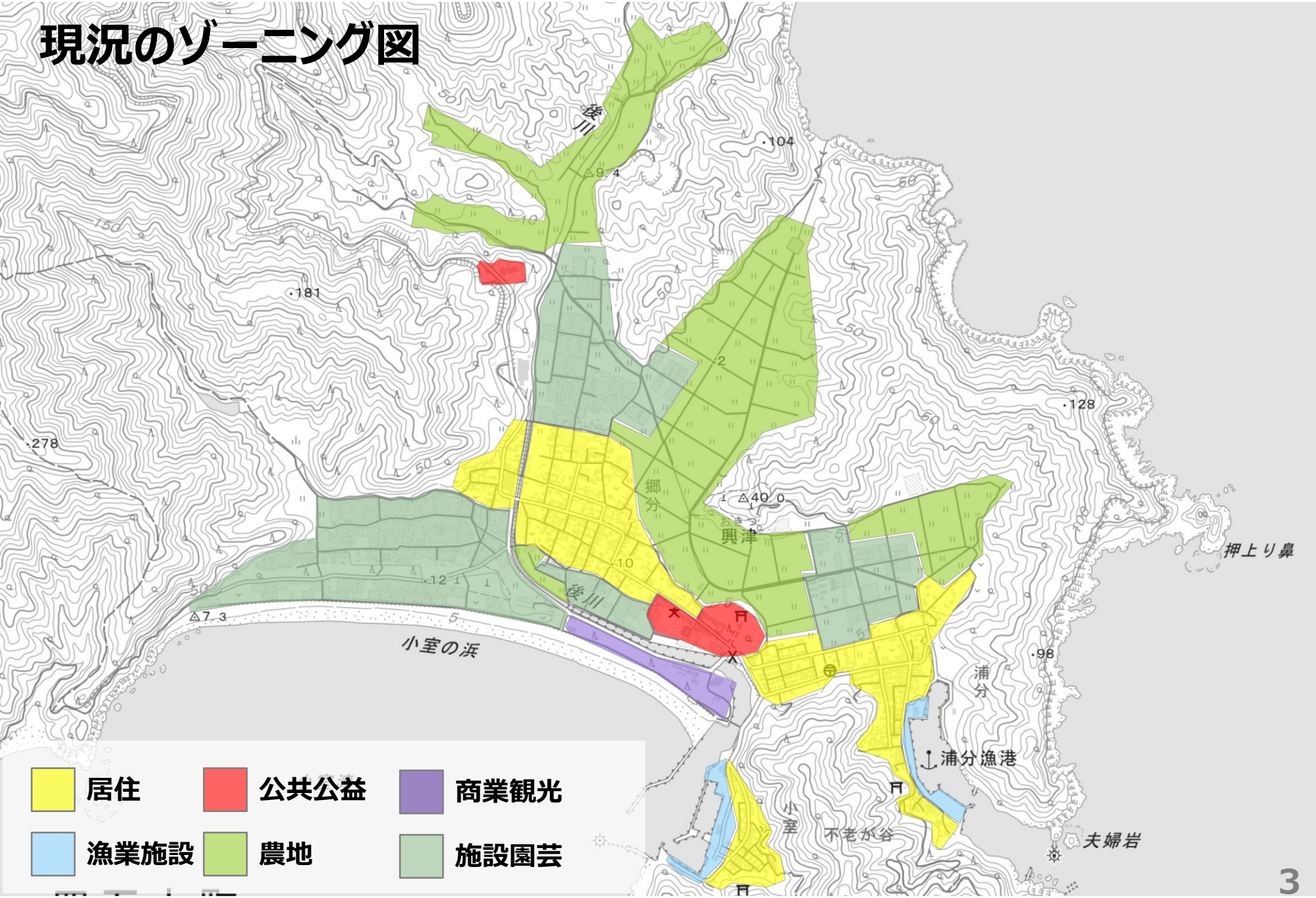
- ✓ 高潮や洪水・土砂災害を避けて形成された微高地に集落が立地
- ✓ 背後に急傾斜地を抱え、造成可能な平坦地が極めて少ない
- ✓ 山に海に囲まれており、山地斜面を縫うように走る県道52号興津窪川線は地区の唯一のアクセス路

人口動態とコミュニティの現状

- ✓ 興津地区の人口は710人、396世帯（R2国勢調査）、高齢化率は58.0%



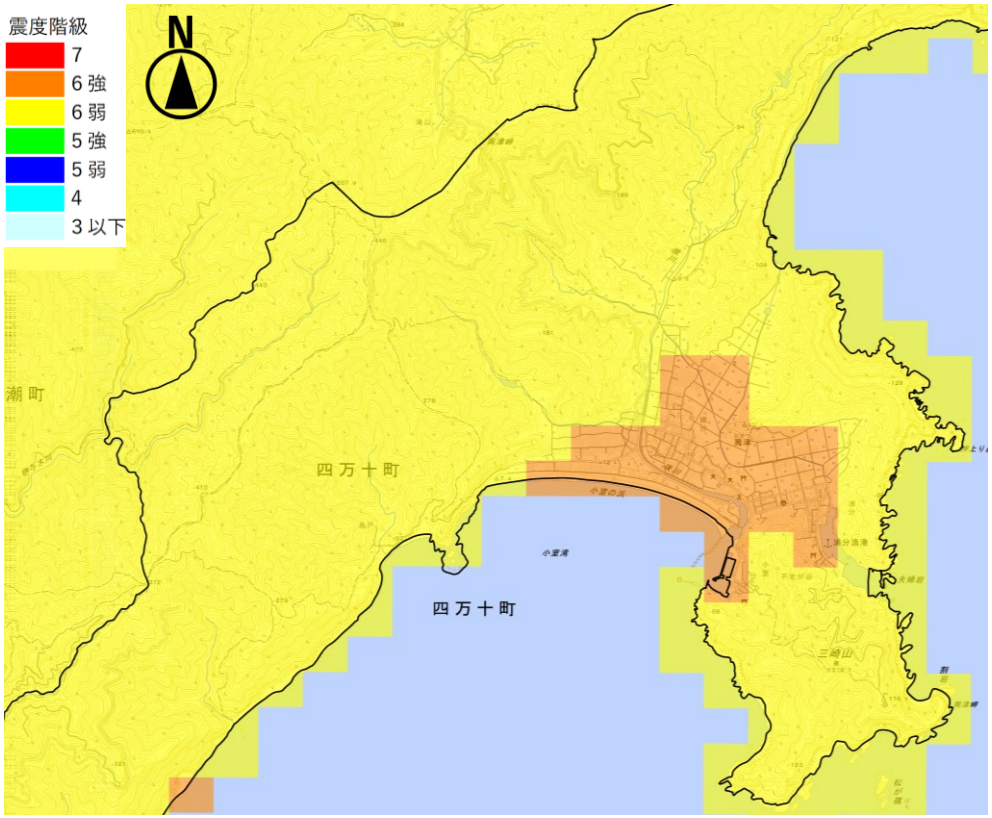
現況のゾーニング図



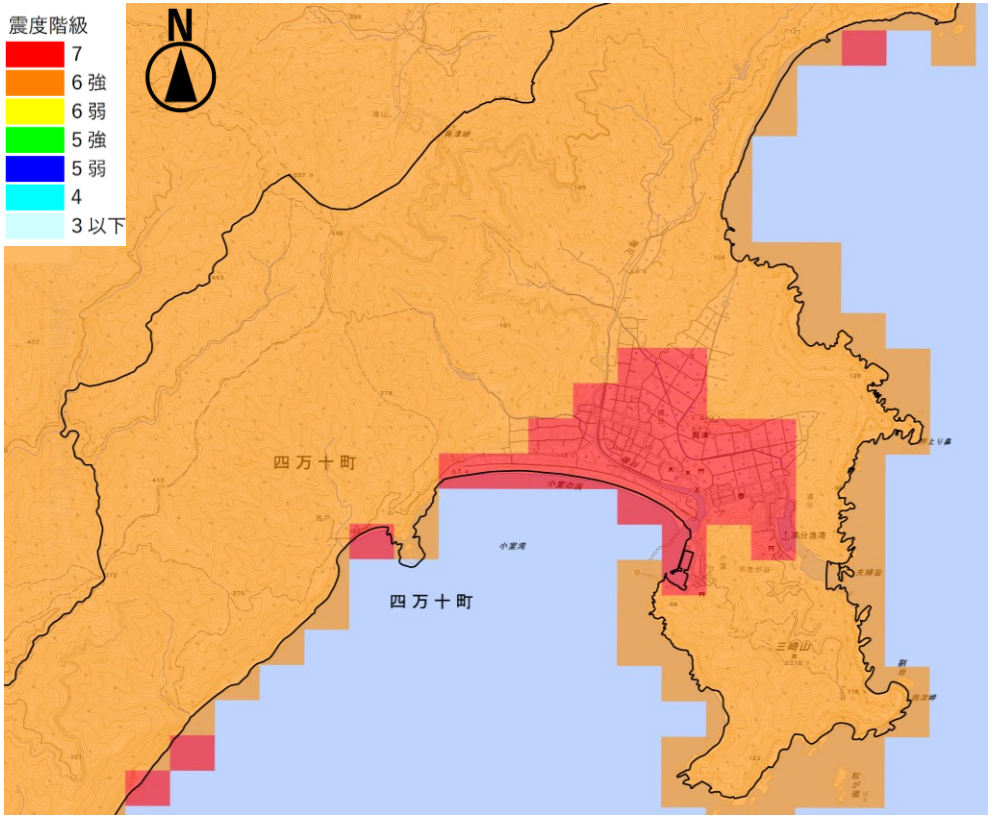
後川
104
9.4
181
278
128
40.0
興津
郷分
押上り鼻
12
7.3
小室の浜
98
浦分
浦分漁港
小室
不老が谷
夫婦岩
居住
公共公益
商業観光
漁業施設
農地
施設園芸

震度分布図（興津地区）

L1クラスの震度分布図

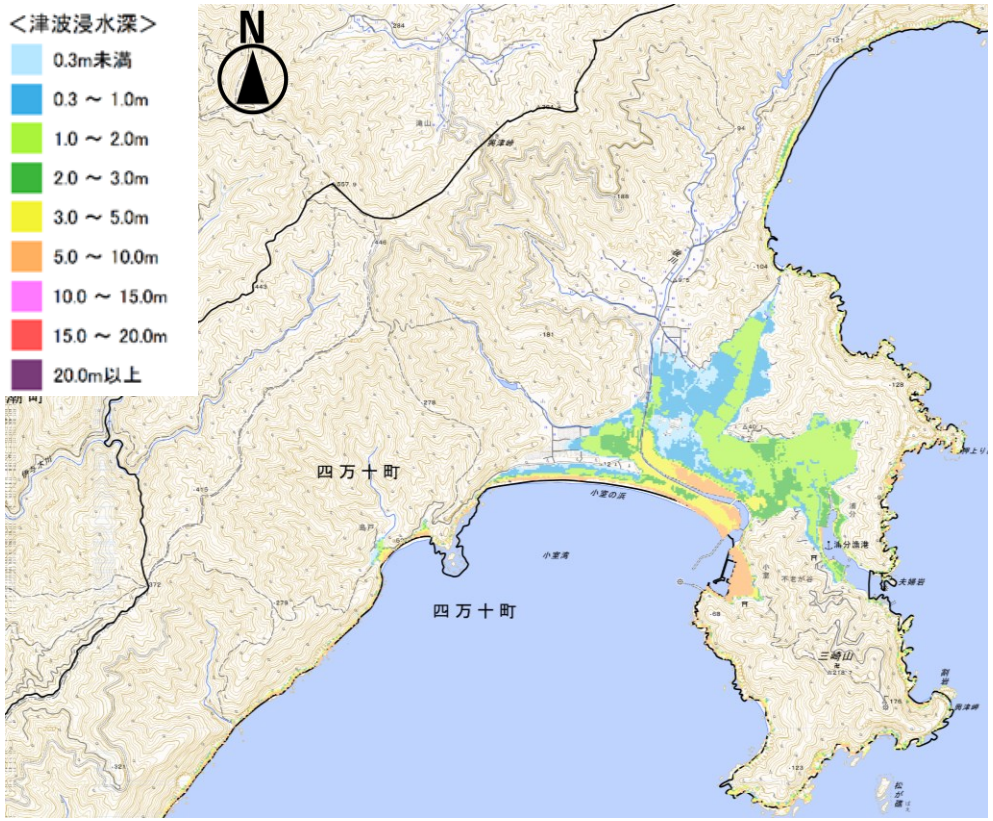


L2クラスの震度分布図

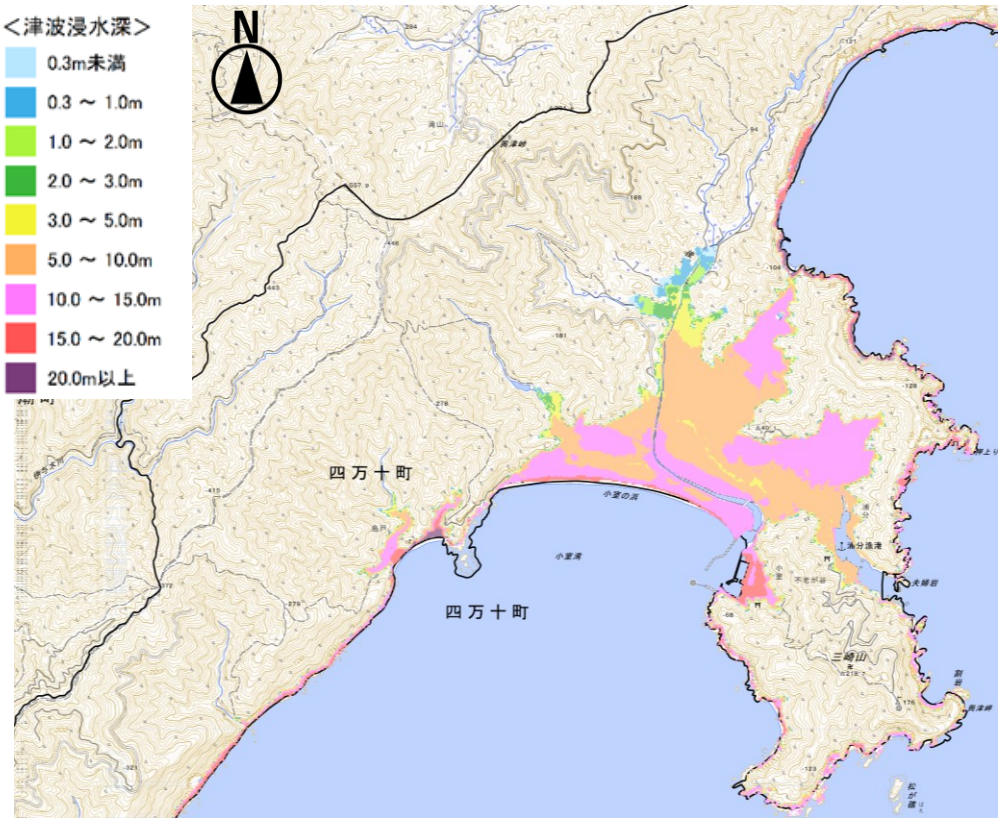


津波浸水想定（興津地区）

L1クラスの津波浸水想定

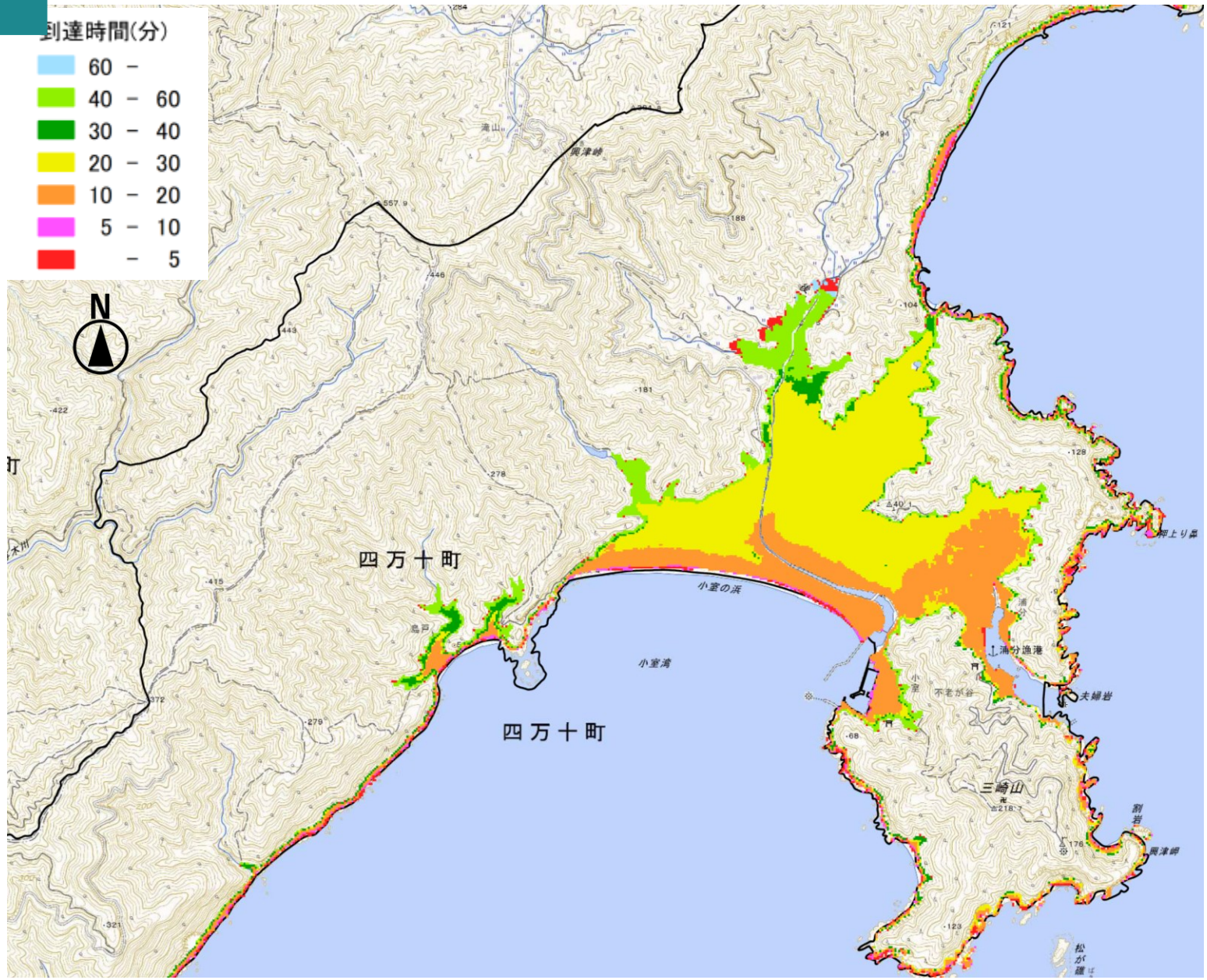


L2クラスの津波浸水想定

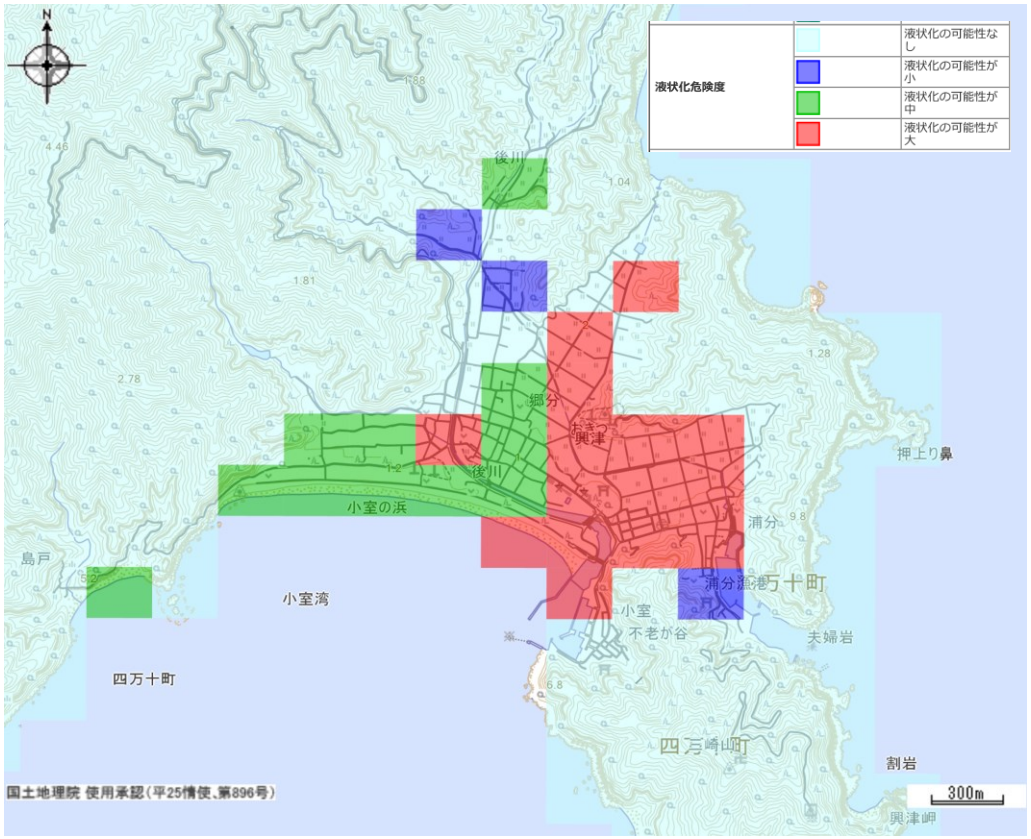


津波浸水予測時間図（興津地区）

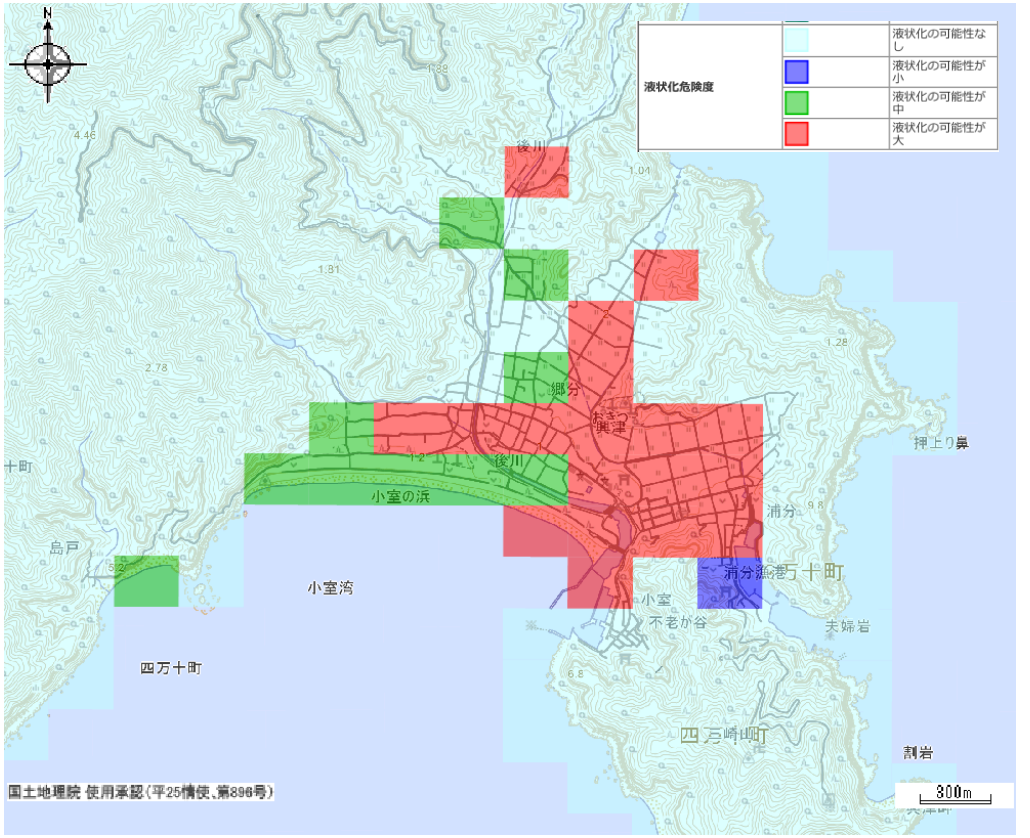
L2クラス



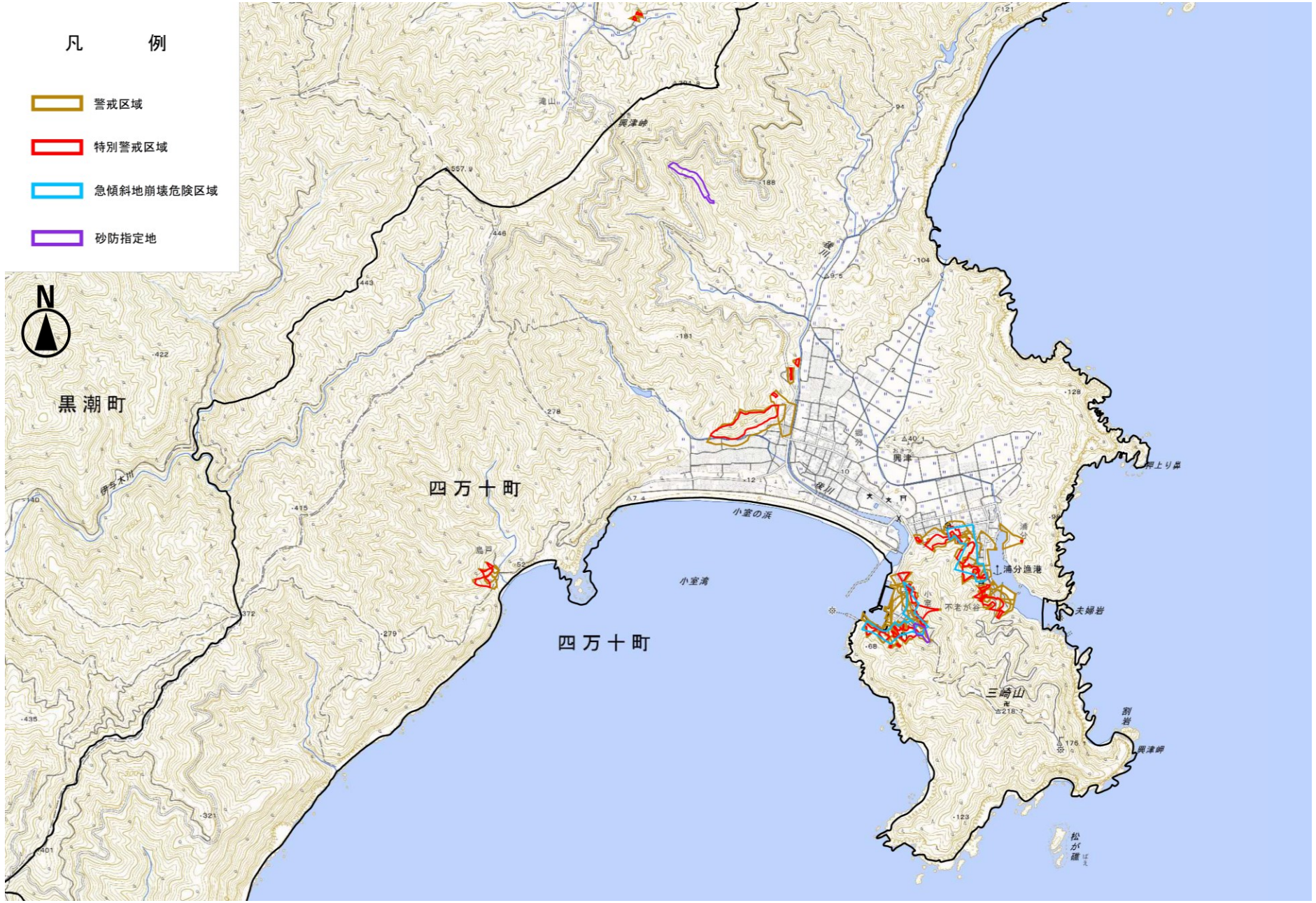
L1クラスの液状化リスク



L2クラスの液状化リスク



土砂災害（興津地区）


凡　例
警戒区域
特別警戒区域
急傾斜地崩壊危険区域
砂防指定地
N
黒潮町
四万十町
四万十町
興津
興津岬
小室の浜
小室湾
浦分漁港
夫婦岩
三崎山
松が礁

志和地区の課題共有

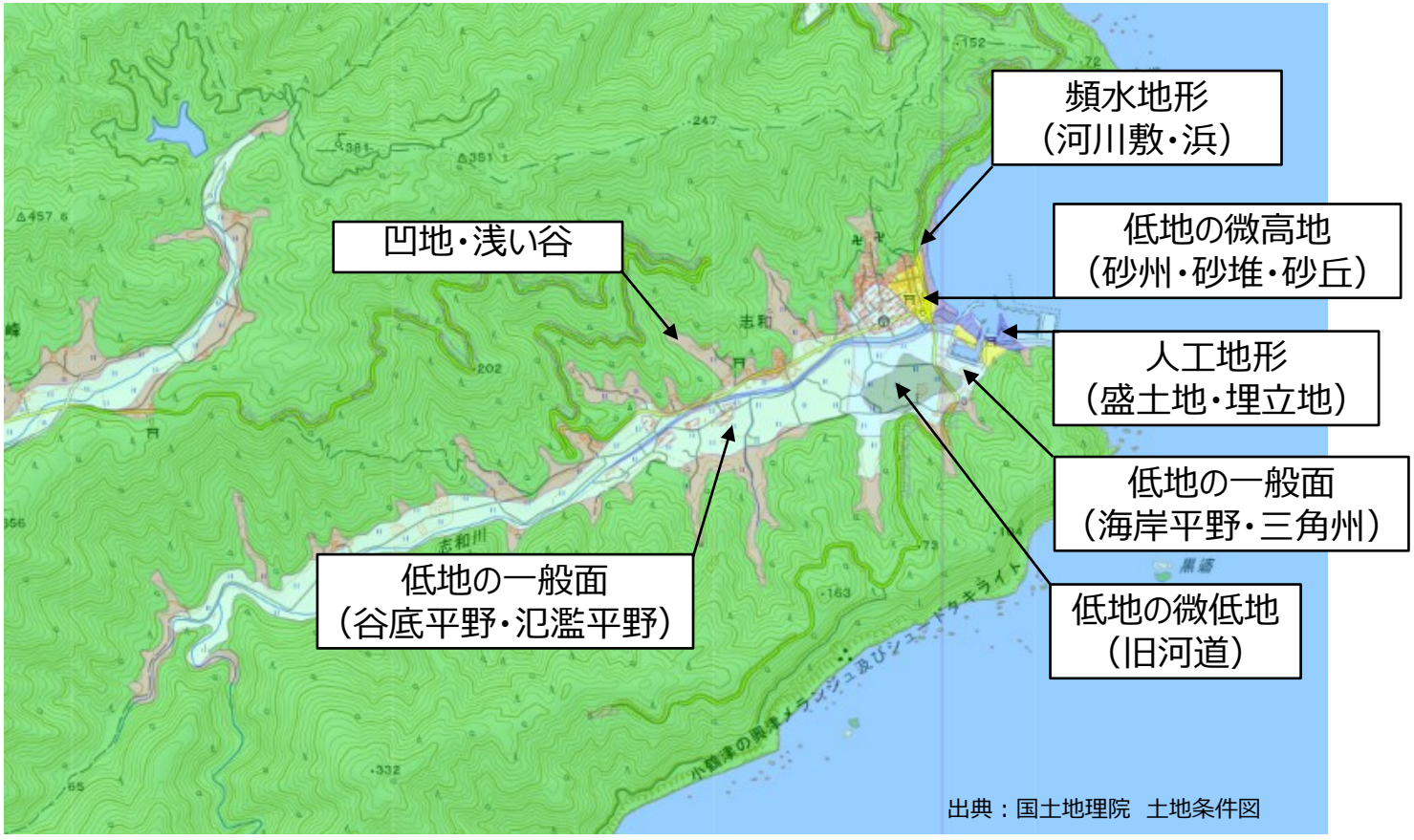
志和の地域特性と社会基盤の現状

地理的・地形特性

- ✓ 険しい山々と海に挟まれ、わずかな谷状の平地に集落が立地
- ✓ 背後に急傾斜地が迫り、平坦地が極めて少ない地形
- ✓ 山を越えて窪川市街地へ繋がる県道326号線が唯一のアクセス路であり、災害時の孤立リスクが高い

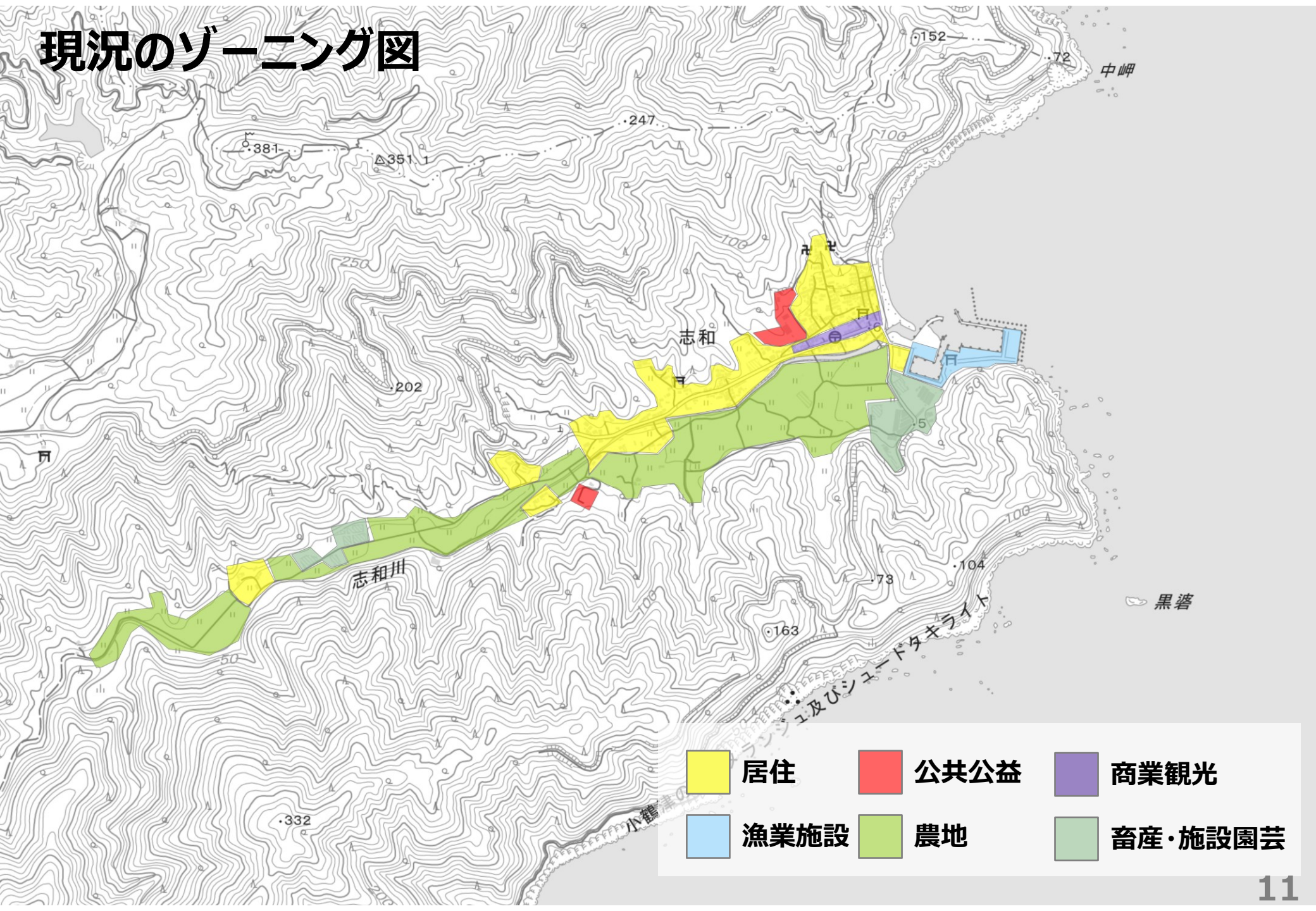
人口動態とコミュニティの現状

- ✓ 志和地区の人口は190人、99世帯（R2国勢調査）、高齢化率は50.0%



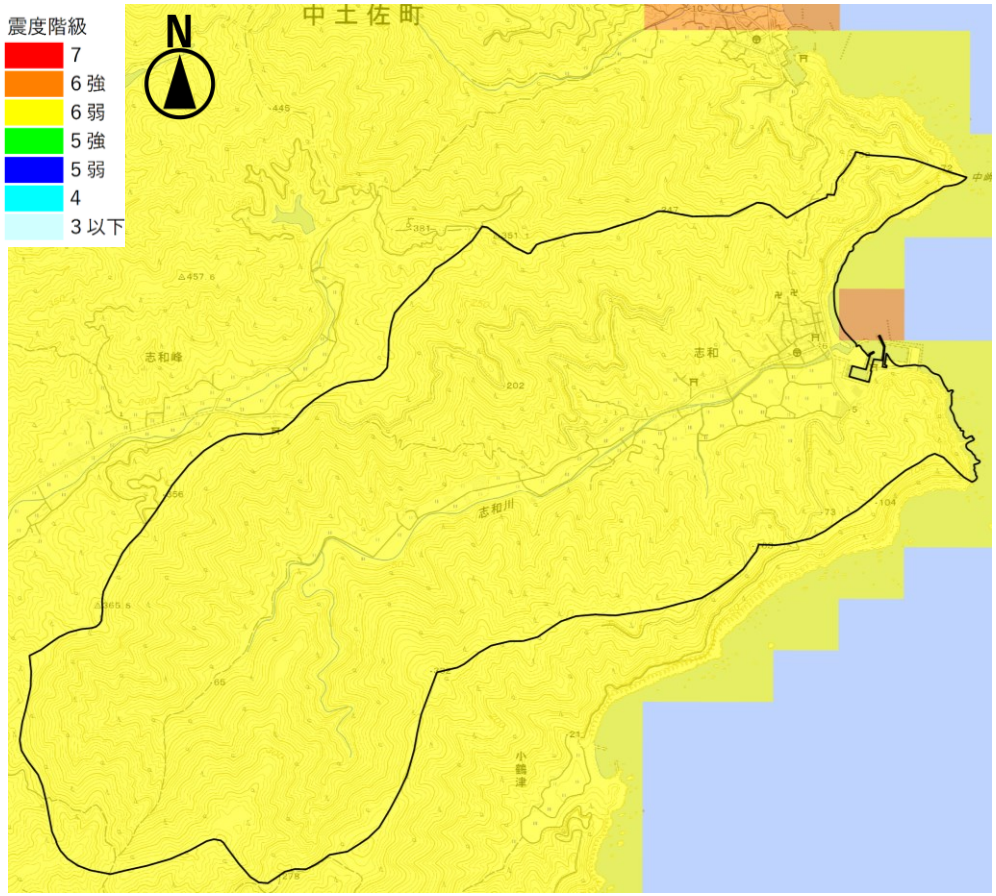
出典：国土地理院　土地条件図

現況のゾーニング図

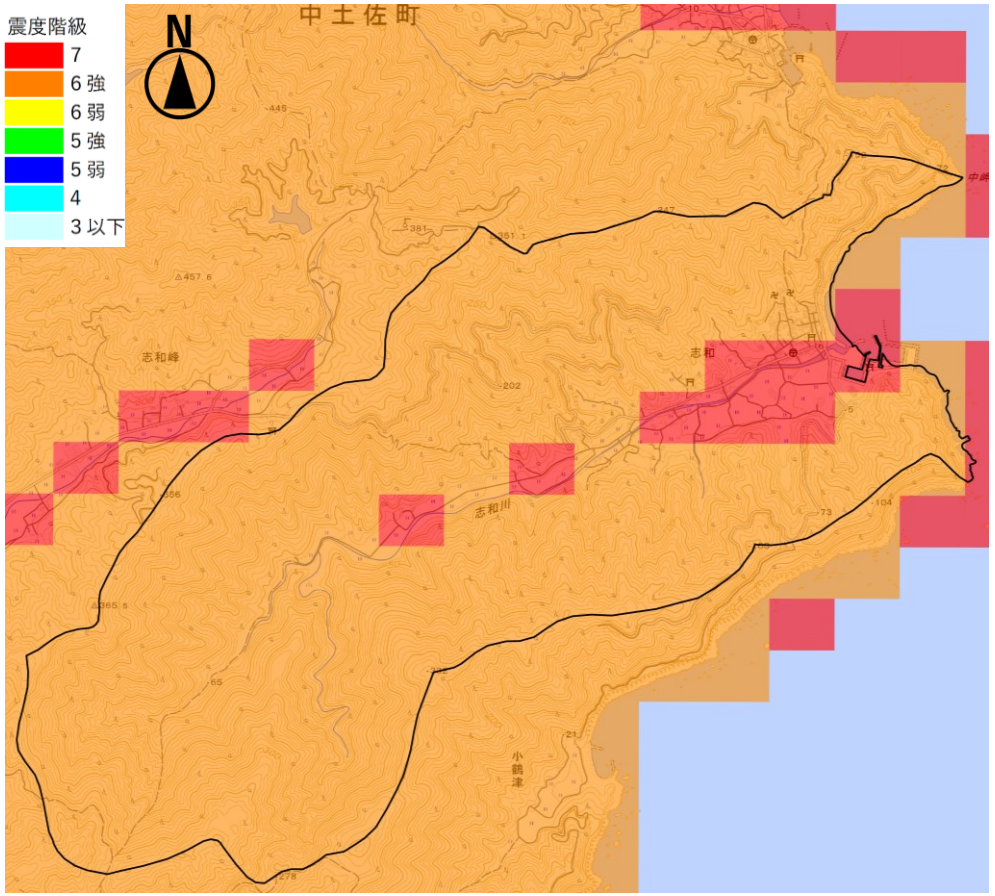


震度分布図（志和地区）

L1クラスの震度分布図

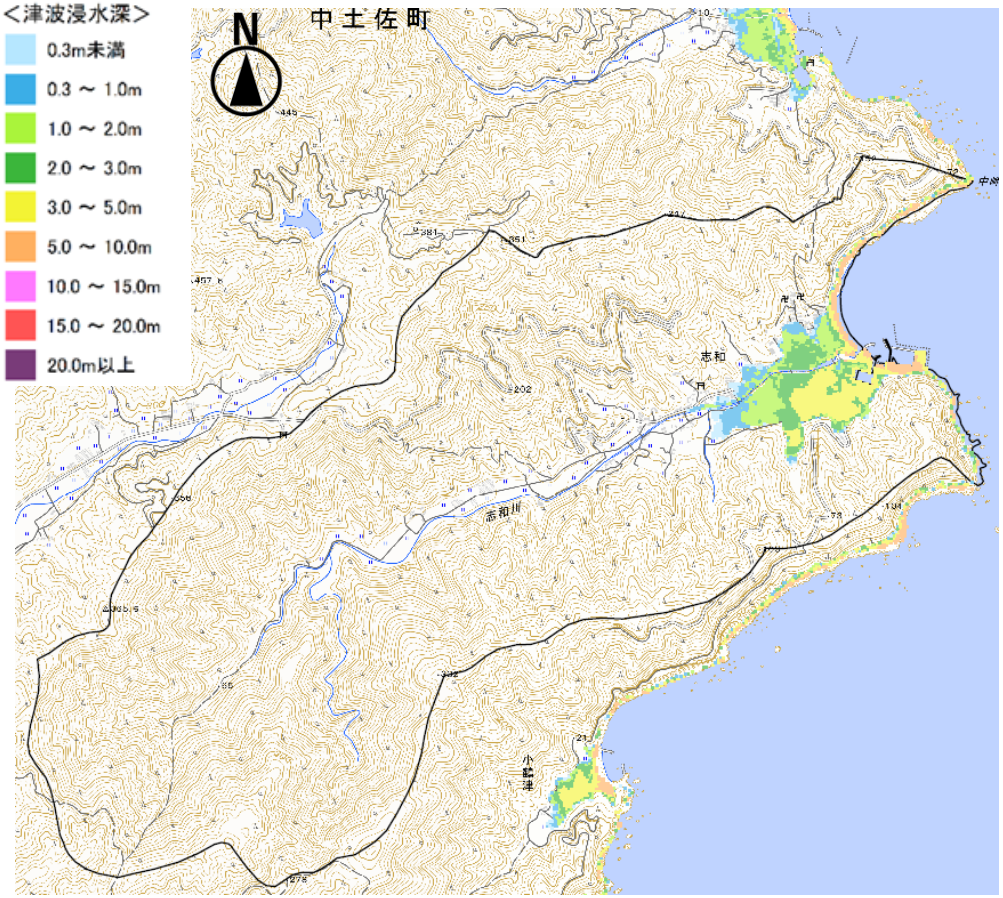


L2クラスの震度分布図

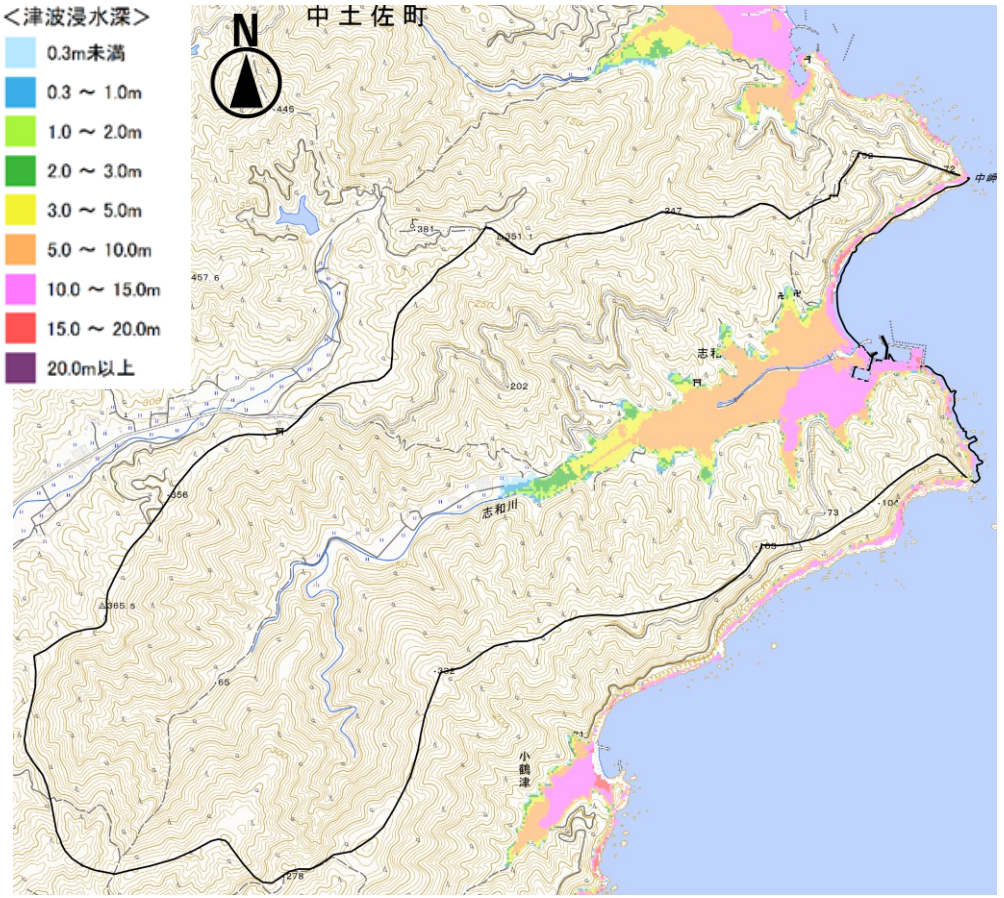


津波浸水想定（志和地区）

L1クラスの津波浸水想定

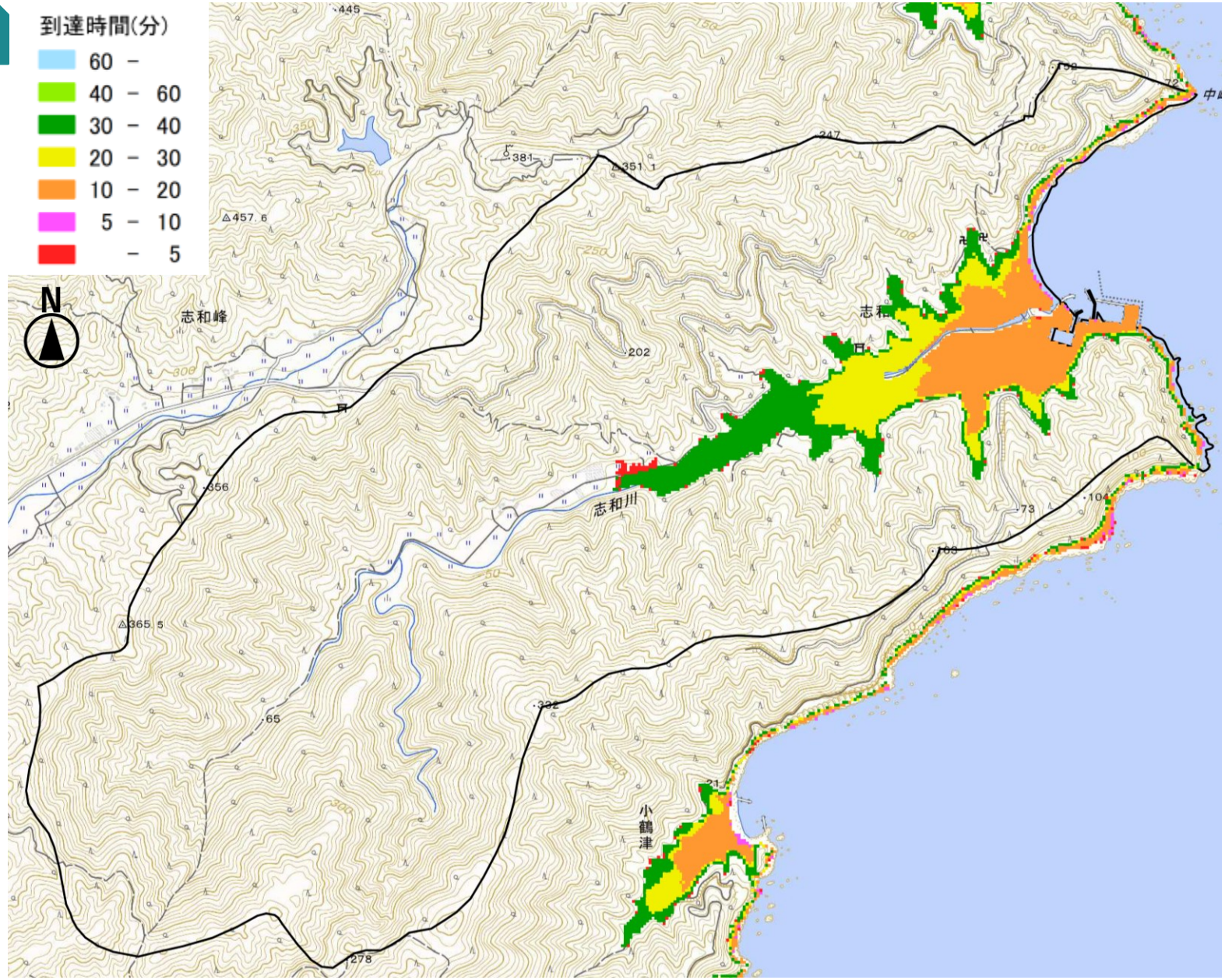


L2クラスの津波浸水想定



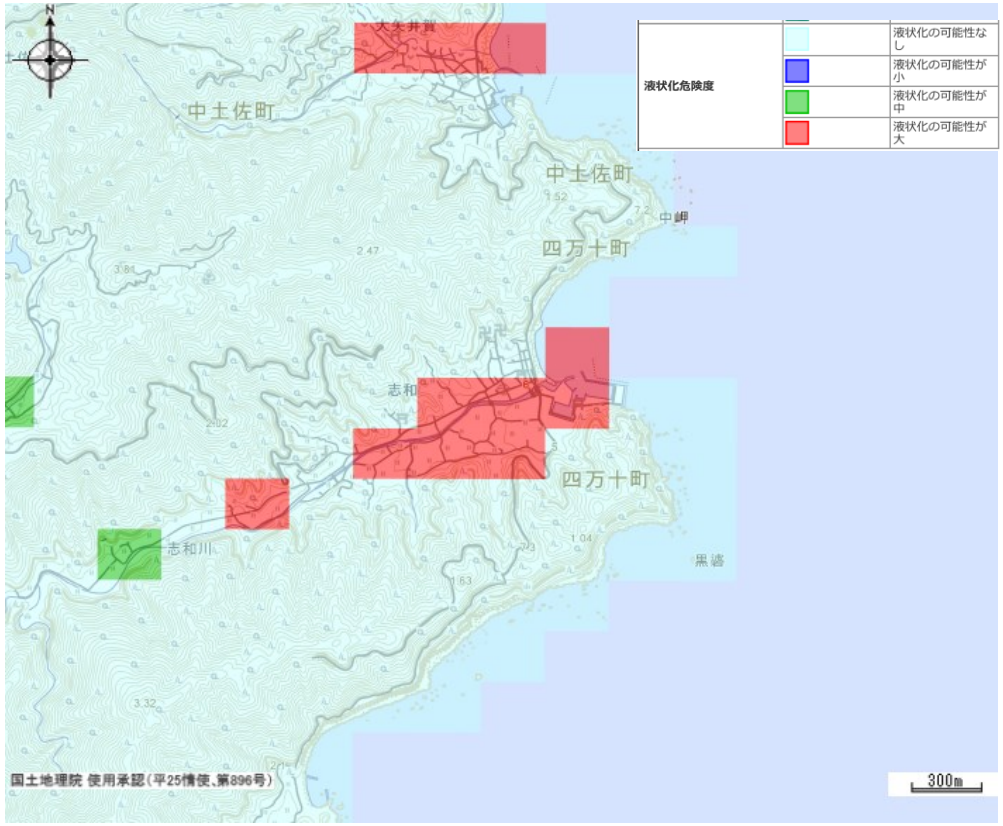
津波浸水予測時間図（志和地区）

L2クラス

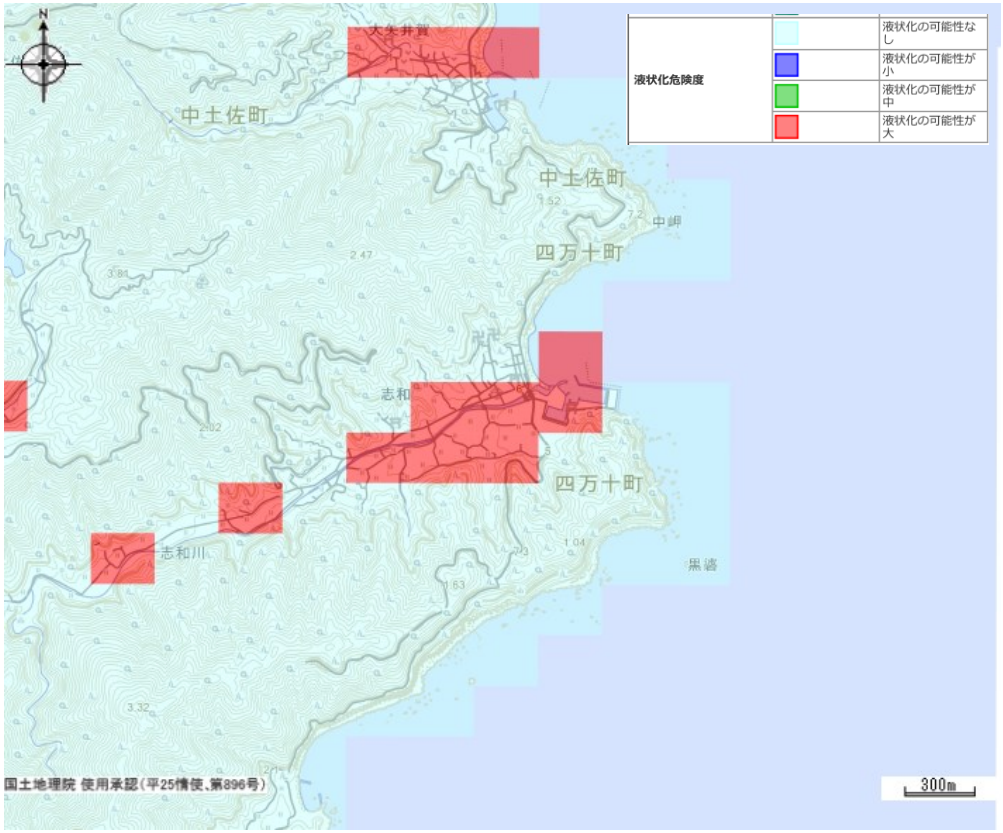


液状化リスク（志和地区）

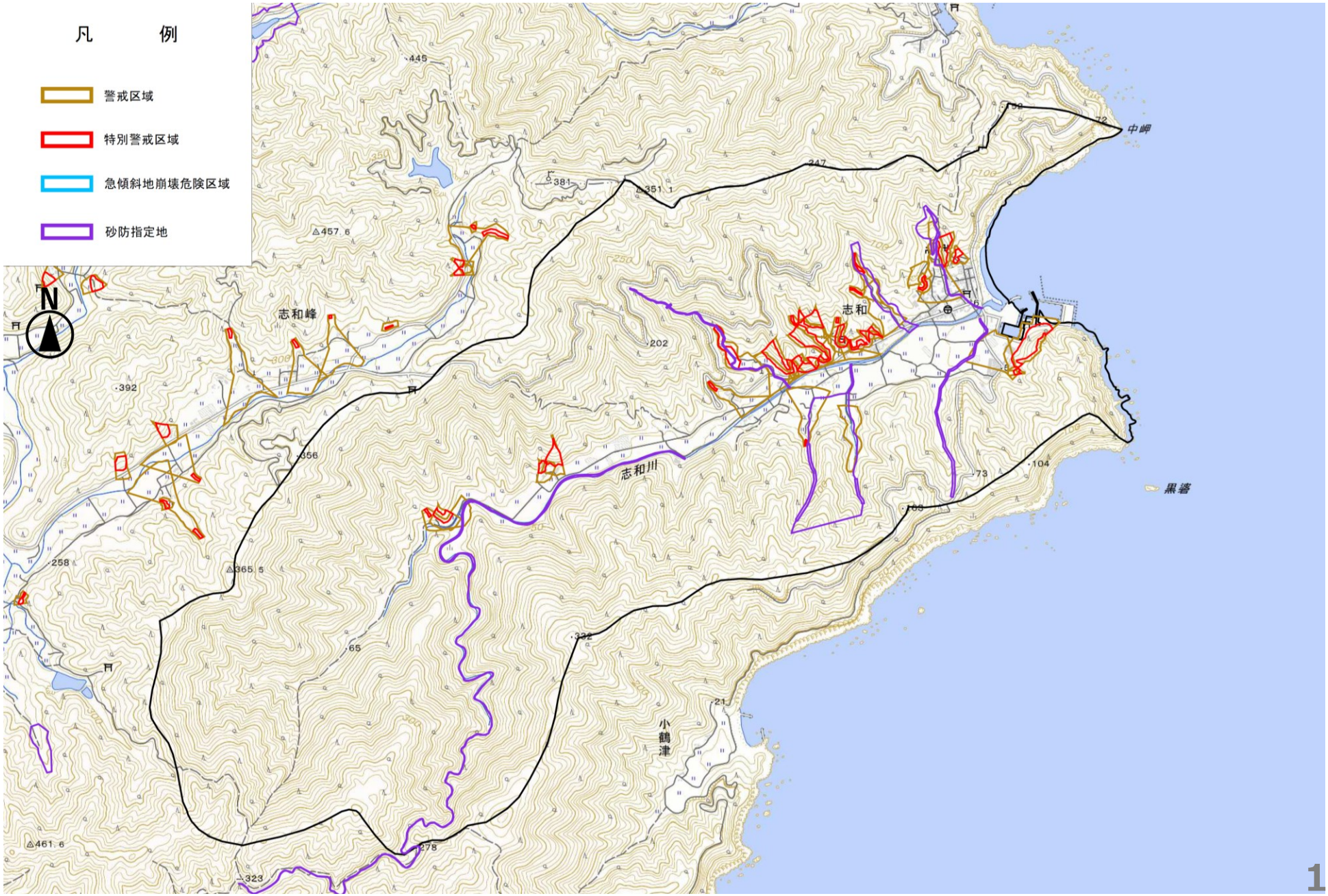
L1クラスの液状化リスク



L2クラスの液状化リスク



土砂災害（志和地区）



四万十町の最大・対策後被害一覧（死者数最大ケースにより抜粋）

L1クラスの被害想定

想定項目	現状	対策後
建物被害（棟）　全建物棟数 20,856 棟		
液状化	60	–
揺れ	410	30
急傾斜地崩壊	70	–
津波	**370棟**	**–**
地震火災	0	–
合計	**910**	**–**
人的被害（人）　死者数		
建物倒壊	20	＊
うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	＊	–
急傾斜地崩壊	10	–
津波	**10人**	**＊**
火災	＊	–
ブロック塀	＊	–
合計	**30**	**＊**

想定の条件:冬の深夜に発生。避難速度は 1 分あたり 30m。夜間及び避難路の液状化による避難速度低下を考慮。浸水域外への最短直線距離の 1.5 倍の距離を避難。
現状：避難開始のタイミングは 10 分後に 73%、20 分後に 27%／住宅の耐震化率 89%
対策後：避難開始のタイミングは 10 分後に 100%／住宅の耐震化率 100%

L2クラスの被害想定

想定項目	現状	対策後
建物被害（棟）　全建物棟数 20,856 棟		
液状化	60	–
揺れ	6,400	860
急傾斜地崩壊	70	–
津波	**890棟**	**–**
地震火災	20	–
合計	**7,400**	**–**
人的被害（人）　死者数		
建物倒壊	400	50
うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	10	–
急傾斜地崩壊	10	–
津波	**260人**	**120**
火災	＊	–
ブロック塀	＊	–
合計	**660**	**170～**

【被災ケース　地震動：陸側／津波：ケース⑩】

- 「－」未算出　／　「＊」若干名
- 人的被害の合計は、建物倒壊と津波による死傷者数の合計とする。
- 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

出典：高知県危機管理部南海トラフ地震対策課「【高知県版】南海トラフ地震による最大クラスの被害想定（令和 8 年 3 月）」